

資料室だより 106

New Josquin edition (新ジョスカン全集)

盛期ルネサンス時代の巨匠ジョスカン・デ・プレに関しては Smijers の校訂になる全集が資料室には完備しています。これは記念碑的な偉業ですがなにしろ解説がオランダ語なので普通は読めません。そしてまた、この全集から半世紀近い月日が流れ、史料的研究も進み、ジョスカン研究の進展を考えるとやはり新全集の刊行は必然ですので新全集を継続購入しております。こちらオランダ音楽学会が主導していますが解説はすべて平易な英語です。ジョスカンは作品数が多いうえに16世紀という時代を考えると、当然偽作問題がでてきます。この全集はジョスカンに帰せられる作品はマニュスクリプトであれ印刷楽譜であれすべて網羅しますが、偽作と真作の識別を注意深くしながら校訂をすすめています。

彼の作品はミサ、モテット、世俗歌曲という分類がなされます。宗教曲に関しては次のようなシステムティックな分類によって刊行されています。

ミサ曲：

1. グレゴリオ聖歌に基づくミサ
2. 世俗旋律に基づくミサ
3. 世俗多声楽曲に基づくミサ
4. 宗教多声楽曲に基づくミサ
5. ソルミゼーションのテーマに基づくミサ
6. カノンによるミサ
7. ミサ楽章（通模倣ではなく単独の楽章）

という具合にミサ曲のマテリアル別の分類です。

モテット：

1. 旧約聖書をテキストとする
2. 新約聖書をテキストとする
3. 聖書のテキストに基づかない
4. 教会暦の様々な折に使うテキストによる。

このようにテキストによる分類です。

世俗曲はただ声部数だけによる分類となっています。

特筆すべきは、2巻が源泉史料のファクシミリに充てられていることです。美しいものから、ひどく損傷したものまで、そして偽作の疑いがあったStabat MaterやAbsalon fili mi、また、さらにタブラチュアなども所収されており、貴重な情報を提供しています。

(杉本ゆり 記)